

洗濯の「取り扱い絵表示」の意味

～ 「家庭用品品質表示法」に基づく表示 ～

【日本工業規格 JIS L O217 繊維製品の取扱に関する表示記号】

記号は、次の6分類とする。〈1〉洗い方（水洗い）〈2〉塩素漂白の可否
 〈3〉アイロンの掛け方 〈4〉ドライクリーニング 〈5〉絞り方 〈6〉干し方

▼表1. 洗い方▼

番号	記号	記号の意味
101		液温は、95℃を限度とし、洗濯ができる。
102		液温は、60℃を限度とし、洗濯機による洗濯ができる。
103		液温は、40℃を限度とし、洗濯機による洗濯ができる。
104		液温は、40℃を限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗い(振り洗い、押し洗い及びつかみ洗い)がよい。
105		液温は、30℃を限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗い(振り洗い、押し洗い及びつかみ洗い)があるがよい。
106		液温は、30℃を限度とし、弱い手洗い(振り洗い、押し洗い及びつかみ洗い)があるがよい。(洗濯機は使用できない。)

▼表2. 塩素漂白の可否▼

番号	記号	記号の意味
201		塩素系漂白剤による漂白ができる。
202		塩素系漂白剤による漂白はできない。

番号	記号	記号の意味
301		アイロンは210℃を限度とし、高い温度(180～210℃まで)で掛けるのがよい。
302		アイロンは160℃を限度とし、中程度の温度(140～160℃まで)で掛けるのがよい。
303		アイロンは120℃を限度とし、低い温度(80～120℃まで)で掛けるのがよい。
304		アイロン掛けはできない。

▼表4. ドライクリーニング▼

番号	記号	記号の意味
401		ドライクリーニングができる。溶剤は、パークロエチレン又は石油系のものを使用する。
402		ドライクリーニングができる。溶剤は、石油系のものを使用する。
403		ドライクリーニングはできない。

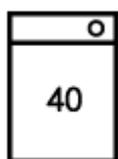
番号	記号	記号の意味
501		手絞りの場合は弱く、遠心脱水の場合は、短時間で絞るのがよい。
502		絞ってはいけない。

番号	記号	記号の意味
601		つり干しがよい。
602		日陰のつり干しがよい。
603		平干しがよい。
604		日陰の平干しがよい。

記号の組合わせ順序及び記号の表示方法は、分類の番号順に左から右に並べる。



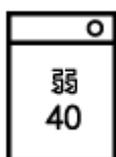
以下の表示記号は、JIS（日本工業規格）により定められた方法で洗浄テストし、適合する場合に記載します。



<テスト方法>

脱水機付きの家庭用洗濯機を使用し、40°Cのお湯を洗濯機の標準水量まで入れます。ここに、標準使用量の割合の洗濯用合成洗剤（弱アルカリ洗剤）を添加して、洗濯液を作ります。そして、洗濯液の浴比（浴中の衣料と水の比率）が、1：30になるように衣類（比率が合わないときには負荷布も）入れ、通常の回転設定で5分間運転をします。

5分後に運転を止めて、衣類を脱水し、洗濯機の水温を30°C以下の新しい水で2分間すすぎます。2分間のすすぎ後、脱水をして、再度2分間すすぎます。最後にもう一度脱水をして、直射日光の影響を受けないようにつり干しまたは、平干しをします。



「弱」と記載している場合は、水流を弱に設定し、浴比を1：60で行います。なお、「中性」と記載している場合は、中性洗剤を使用します。



適当な大きさのタライに、衣類が十分つかれる量の液温30°Cの水を入れ、標準使用量の合成洗剤（弱アルカリ洗剤）を入れます。そして、2分間弱い手洗い（必要に応じて押し洗い）をした後、30°Cのキレイな水ですすぎ脱水します。



この方法で、衣類に問題が発生した場合は、「水洗いはできない」になります。



次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素量約0.5g/l）を含む水溶液（温度20°C）で60分処理し、水洗い後に過酸化水素（酸素系漂白剤）処理、水洗い、乾燥後に染色堅ろう度を判定します。



衣料を均一に湿らすように水を噴霧し、アイロン台に乗せ、表面温度が200°Cの家庭用アイロンで適切な圧力をかけながら、横糸方向に1秒間に約3cmの速度で1往復させます。



パークロロエチレン（300ml）に界面活性剤（3g）、水（0.3ml）を入れ、40°Cで30分洗浄後、60°C～65°Cで乾燥機を使用して乾燥する。



上記と同じ方法で、溶剤は石油系溶剤を使用する。（自然乾燥をしてくださいと記載している場合は自然乾燥します）